

20歳迎えたシャチの飼育員・小松加苗さん

## 喜びひとしお「親のよう」



国内で初めて飼育環境下で生まれた鴨川シーワールド(鴨川市)のシャチ「ラビー」が、1月11日に20歳を迎えた。日々の体調管理からパフォーマンス練習まで支えてきた飼育員の小松

加苗さん(33)は「振り袖の新人と一緒に記念撮影もでき、いつもの誕生日よりうれしかった。親のような気持ちかな」と笑う。長野県駒ヶ根市の出身。「海なし県」に生まれたせ

いか、小学3年生のころに愛知県の水族館でイルカショーを見て「トレーナーってカッコいいな」とあこがれた。大学ではバイオサイエンス学科でクジラを始めとする海の生き物を勉強。2007年に念願だったシーワールドに採用された。イルカの担当を経て、2年目から夢だったシャチの担当に。先輩5人と、毎日のえさやりや体温・心拍の測定、採血、水質管理の業務とパフォーマンス練習に取り組んだ。当時、ラビーは初めての妊娠中。チームが24時間態勢で見守り、間もなくオスの「アース」が無事に生まれた。第2子のメス「ルーナ」を産んだ12年からメイン担当に。18カ月間の妊娠期間と出産、その後の子育てを支えた。シャチの寿命はメスが50〜60年、オスが40〜50年とされる。「いつまでも元気で長生きしてほしい」。母のような表情で話した。

(川上真)